



郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校

2026年3月1日

3月号

校長 安倍 武雄

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

学校評価アンケート集計結果と分析をHP上で公開します。ぜひご覧ください。

一つずつ大きくなるみなさんへ

早いもので令和7（2025）年度も数えるばかりとなりました。最高学年として浜之郷小を引っ張ってきてくれた6年生はいよいよ19日（木）に卒業しそれぞれの中学校へ進学していきます。これまでの6年生の姿は本当に立派でした。あと少しの間みんなといっしょにいて、「浜之郷小の子ども」のよりよい姿、あるべき姿を見せてください。

さて、少しだけ私の昔話におつきあいください。長女が生まれ1年以上たって歩くのもやっと楽しくなった頃のこと。公園をしばらく散歩していました。それまでお花を見たり落ち葉を拾ったり嬉々として散歩を楽しんでいたこの子が、急にぐずり始めだっこをせがんできました。歩くことを嫌がることがあまりなかったので不思議に思いながらも、しかたなくだっこをしました。しかし、さすがに長時間だっこしっぱなしはこちらも苦しくなってきます。そこで、下におろして歩かせてみるとまたすぐぐずります。「不思議なこともあるものだなあ、虫の居所が悪いのかしら…」などと思いながら、だっこしては歩かせ、ぐずり、まただっこして…を繰り返しながら家に帰りました。家に着き、靴を脱がした時その謎が解けました。小さな石が、ころんと靴からこぼれ落ちたのです。「そうか！これがチクチクして嫌だったんだね！気づかずにゴメン！！」とその時思ったものです。叱ったり、怒ったりしなくてよかった…。

親にとって、ぐずられたり駄々をこねられたりするの**「困った行動」**です。公園だったからいいようなものの、電車やバスだったら周りのご迷惑を考えて降りるということも考えなくてはなりません。しかし、我が子の例を見てもわかるようにこの**「困った行動」**は、単なるわがままではなく、言葉が上手に使えない子どものメッセージだったのです。言い訳のようですが、この場合、背後にある理由を理解することは難しいことでしたが…。

同様に、すでに言葉を自由に使えると考えられる小学生の子どもたちでも**「困った行動」**は起きますし、その多くは実はその子が「困っている」のだと考えていいでしょう。「気を引きたい、構ってほしい」という注目されたい気持ち、「お菓子がほしい、ゲームを続けたい」という葛藤、「宿題をしたくない、「なんだか不安」から逃げたい」という逃避など**自分のマイナスの感情を上手に言葉にできないからこそ大人にとっての「困った行動」**が起きてしまうのです。もちろん、発達の課題で「じっとしているのが辛い、刺激が足りない」などの場合もあります。

ご家庭でも、少しずつ**「見守る」「一緒に考える」**を繰り返して子どもたちが**「正しい言葉」**を身に付けていくことが大切なのではないでしょうか。もちろん学校でも取り組んでいきます。

保護者の皆様、地域の皆様

まもなく令和7年度も終了します。これまで、本校の教育活動に対しましてたくさんのご理解、ご協力、そしてご支援を賜りまして、心より感謝いたしております。ありがとうございました。

今年度は「安心・安全な学校」をテーマに学校運営をしてきました。また、保護者・地域の皆様にも学校にお越しいただく機会や学校での子どもたちの様子をお知らせする機会を増やして、その理解を深めていただいております。

令和8年度も保護者、地域の皆様と共に、子どもたちのために尽力してまいります。今年度と同様浜之郷小学校へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。